

【人権週間における取組】



◇活動内容の説明

(1年) 人権教育の導入として、人権の木を各クラスで作成した。1年生は、人権とは何か?を学習する前に、「人との関わり方で1番大切にしたいこと」をテーマに考えた。生徒の意見を抜粋すると、「自己中心的にならないこと」「とりあえず、相手の話を聞く」「素でいること」など多様な意見がでてきた。これらをそれぞれの葉っぱに書いた。その後、視覚障害体験・高齢者体験・車いす体験の3つを体験し、障害者の困難さに気づき、自分たちができることを考えた。

(2年) パラリンピック・デフリンピック東京大会の紹介を通じて聴覚障害のことや生き方について学習した。障害を持つアスリートの大会として、パラリンピックはよく知られているが聴覚障害を持つアスリートの大会はあまり知られていない。外見では判別できない障害を持ちながら、音のない世界での競技に挑むアスリートの姿に触れ、障害とともに自己を高める意志の強さを学んだ。この学びを基に、頑張る人を敬う心と人権意識を高めることができた。

(3年) 【めあて】みんながよりよく学校生活を送るために自分たちができることを話し合うことができる。→人と関わる時に気を付けていることを全体で確認し、それぞれが違う個性を持った人がいる学校の中で、よりよい学校生活をおくるために必要なことをグループで話し合いグループスライドにまとめて発表した。各班の発表を基に人権の木を作り、葉っぱや花になる部分によりよい学校生活をおくるために必要なことを書き、全体で共有した。

◇生徒の感想

(1年)・ぼくは人権学習をふりかえって、いろんな人への気配りの大切さを感じました
・同じ障害の人でも障害のレベルが違ったら、物事に対しての大変さが違うと思うからそこはその人に聞いて、何をするのが難しいか、今何を手伝ってあげればよいのか聞いてからサポートしたいと思いました。

(2年)デフリンピックとは、はじめ何かわからなかったけど、「デフ」=耳が聞こえないとわかったし、耳が聞こえなくても、大会に出るということをめず練習しているとわかってすごいなと思いました。

(3年)人と関わるうえでどんなことに気を付けたらいいか改めて考えることができた。大人になっても人と関わる場面はたくさんあるので気を付けていきたい。

